



『いまかね和牛』

感謝と 美味しさ

牛^{ぎゅう}と込めて

和牛の祭典 2017

のみやぎ

第11回 全国和牛能力共進会

いざ出陣!!

第63回道南畜産共進会 今金勢大健闘！！



▲ 乳用牛の部 未経産牛 最高位賞
インマヌエル ダイヤモンド アテイツク

審査は厳格公正に行われ、今金からは肉用牛の部では「さくら」（出陳者 荒川英也さん）が最高位の栄冠に輝きました。また、乳用牛の部でも未経産牛では「インマヌエル ダイヤモンド アテイツク」（出陳者 山崎良介さん）が最高位、「クリサンス エルメン ブラクストン キララ」（出陳者 菊地章太さん）準最高位に輝いたほか、経産牛でも「エッセンス サンチ エス アポロ ジョーダン」（出陳者 プロジェクトSEED）が準最高位を獲得しました。

乳用牛は、北海道ホルスタインナショナルショウが9月23・24日に安平町において行われる予定となっています。今金からの出陳牛の活躍に期待しましょう！



▲ 肉用牛の部 最高位賞 さくら

8月23日、第63回道南畜産共進会が八雲町にて行われました。

当日は渡島・檜山管内から、肉用牛の部13頭（内、今金より9頭）、乳用牛54頭（内、今金より10頭）が出陳され生産農家の日ごろの研鑽努力による改良成果が披露されました。

「第31回JA夏祭り」 たくさんのご来場ありがとうございました。



8月4日、第31回目を迎えた恒例のJA夏祭りが行われました。当日は天候にも恵まれ組合員の皆様のほか町内外から多くの方々にご来場いただきました。

毎年、組合員や町民の皆様へ、日頃からのJA事業のご愛顧に感謝し夏祭りを開催しております。これからも地域に貢献できるよう事業を展開して参りますので、今後ともお引き立て下さいませよう、よろしくお願い致します。

「今金男しゃく」の出荷スタート！



8月4日、今金町で一番の特産品「今金男しゃく」の出荷が昨年より2日早く始まりました。今年はやや小玉傾向ではありますが、ライマン価（でんぷん質）が高くホクホク感があり、形状も丸くとても男しゃくらしい姿に仕上がりました。

全道的に馬鈴薯の作柄は良いと見られており、道内各産地の出荷が本格化されるのに伴い環境は厳しくなるとの見通しですが、有利販売による価格維持に努めて参りますので、組合員の皆様におかれましては更なる農協への結集をお願い致します。

宮城全共 出陣式



9月4日、宮城県で行われる第11回全国和牛能力共進会に北海道代表として出場する佐藤さん、木島さんと4頭の牛たちの出陣式がJA本事務所前にて行われました。

当日は多数の生産者や関係者が激励の為に集まり、全共での活躍を祈り出発を見送りました。

生産者を代表して挨拶をした佐藤さんは「自信を持って日本一を目指せる牛になったので、応援をよろしく願います。」と意気込みを語りました。

理事者による圃場巡回を実施



8月25日の農協理事会終了後、理事者による圃場巡回が行われました。

7月の曇天続きの天候による農作物への影響を確認する為に行われたもので、当口は、ほこほこ大地の大根選別ラインや大豆圃場、水稻圃場等を巡回しました。

巡回には普及センターの職員にも同行していただき、気象データの解説や農作物の生育状況についての説明をいただきました。

水稻 稔実調査を行いました



8月29日、檜山農業改良普及センター北部支所において水稻の稔実調査が行われました。

本年は出穂期の低温の影響で葉鞘褐変病が多く見られた為に実施されたもので、この日は今金・北檜山・若松の3JAが事前に採取した稲穂のサンプルを持ち寄り、普及センターや共済組合の職員と合同で調査を行いました。

調査の結果、不稔歩合はやや高めだが、総粒数は概ね平年並に確保されているとのことです。出来秋に期待しましょう！

もぎたて100円市を開催！！



毎朝採れたての新鮮な野菜が味わえるJA今金町女性部による「もぎたて市」が8月23日、Aコープいまかね店の店頭にて日頃のご愛顧に感謝し「100円市」を開催しました。

「もぎたて市」も今年で15年目を迎え、この日は会員が考案したオリジナルレシピも配布され、数量限定の新鮮野菜はあっという間に完売御礼となりました。

理事会報告

第8回理事会（平成29年7月21日）

◆報告事項

1. 農業委員会総会報告について
2. 第一委員会報告について
3. 種子馬鈴薯第一期〜第三期防疫検査の結果について
4. 農畜産物の販売状況及び生育状況について
5. お盆期間中の業務について
6. コンプライアンス講習会の実施報告について
7. 顧客属性照会システムの定期結果報告について

◆監査報告

◆議決事項

- ・議案第1号 第1四半期監査に対する回答（案）について
- ・議案第2号 平成28年産馬鈴薯本精算について
- ・議案第3号 平成29年度農畜産物の栽培・管理及び農産物の取扱について
- ・議案第4号 両替手数料の設定について

第9回理事会（平成29年8月25日）

◆報告事項

1. 内部審査結果報告について
2. 組合員の加入・脱退の状況について
3. 第2四半期部門別実績対比について
4. 平成29年度農作物の生育状況について
5. 道南畜産共進会の結果報告について
6. 今金町畜産共進会の結果報告について
7. 燃料、寒冷地手当の支給について
8. 経営定期点検の結果報告について
9. JA共済コンプライアンス点検結果について
10. JASTEMシステム基盤更改危機管理計画書の制定について
11. 今金秋祭り期間中の業務日程について
12. 平成29年度総会承認による施設計画の実施状況報告等について
13. 道検査の実施について

◆議決事項

- ・議案第1号 てん菜立会人の選任について
- ・議案第2号 平成29年産米のJA独自共計について
- ・議案第3号 出資持分の譲渡について
- ・議案第4号 JA全国監査機構監査報告について
- ・議案第5号 火災見舞金の支給について

秋の収穫期、作業前にもう一度安全確認を！

年間の中で最も農作業事故の発生が多いのは、春作業が行われる4～5月頃と収穫期の9月頃です。
 北海道では、昨年平成28年には10名の方が亡くなっており、今年も5月末までで既に4名の方が亡くなっています。
 改めて家族や農作業に関わるみんなで農作業事故のポイントを確認しましょう！

事故防止のための注意点

□農業機械作業の注意点

- 機械の修理・点検や稲わら等を除去する時などは、必ずエンジンを停止させましょう。
- 道路の路肩や、ほ場の出入口、傾斜地でのトラクター等の転倒、転落に十分注意しましょう。（万が一の場合に備えて、安全キャブ又は安全フレームを装着しましょう！）
- 作業を始める前には、農機具の取扱説明書の確認や、整備点検を行い、安全な運転操作に努めましょう。
- 機械に衣服などが巻き込まれないよう、作業に適した服装で作業しましょう。

□農業機械作業以外での注意点

- 脚立やはしご等を使って作業する場合は、落下や転倒をしないよう、足場に十分注意しましょう。

□万一の事故に備えた労災保険の加入

- 事故が発生した場合に備え、労災保険に加入し、必要に応じて障害共済等の各種任意保険にも加入してお



コントラクター事業 料金表【秋作業抜粋】

(作業料金：税別)

作業区分		作物名	単位	料金	条件	備考
委託作業	収穫	大豆	10a	7,200	オペレーター付き	・圃場状況により両者で協議 ・倒伏状況により両者で協議 ・圃場のすま刈り、 生糞搬送は両者で協議
		小豆	10a	8,200	〃	
		小麦	10a	7,200	〃	
		水稻	10a	9,200	〃	
		そば	10a	6,200	〃	
	豆の脱穀	大豆・小豆	1時間	10,200	〃	・ビーンオートスレッシャー ・補助作業員は生産者持ち
	ビートハーベスター	ビート	10a	7,000	〃	・圃場状況により両者で協議 ・タッピング有り
	ビートタッピング	ビート	10a	1,700	〃	・圃場状況により両者で協議
	ポテトハーベスター	馬鈴薯	1時間	10,200	〃	・圃場状況により両者で協議 ・機上選別作業員は生産者持ち
	乾燥・調製	そば 乾燥	—	45kg	650	—
そば 調製		—	45kg	300	—	
粉 調製のみ		—	60kg	750	—	
粉 乾燥・調製		—	60kg	2,100	—	
大小豆 乾燥		—	60kg	900	—	
大小豆 調製		—	60kg	500	—	
レンタル機械	ビートハーベスター	—	10a	4,000	—	
	ビートタッパー	—	10a	1,000	—	
	ストローチョッパー	—	半日	10,000	—	ニプロ MEC2500 (69～80ps 対応)
	溝堀機	—	半日	5,000	—	ニプロ OM-310D (16～60ps 対応)
	畦塗機	—	半日	25,000	—	コバシ スーパーガイア (48～97ps 対応)
	畦塗機	—	半日	15,000	—	ニプロ リターンシリーズ (34～60ps 対応)
	畦塗機	—	半日	9,000	—	ニプロ 電動オフセットシリーズ (25～50ps 対応)
	牧草追播機	—	10a	750	—	

～レンタル機械使用上の注意～

- 使用後は必ず洗浄してから返却してください。
- 消耗による破損を除き、破損時の修理費用は利用者に負担していただきます。
- 機械の利用・運搬時に発生した事故等の責任の一切は利用者が負うこととします。

【利用申込み・お問合わせ先】
 営農部 農業経営課 成田まで
 TEL 82-0212

檜山農業改良普及センター 檜山北部支所より

営農情報 9月号

今後の農作物管理	
水稲	<p>水稲（遅3日） 標準（成苗なつぼし）の出穂期は8月1日で、8月上～中旬は低温で経過し、成熟期（登熟積算気温：950度到達）の見込は9月17～20日頃となります。（8/23予想）今年の総粒数はやや多めで、登熟日数を要する場合もありますのでご留意下さい。</p> <p>○収穫・乾燥調整に向けた準備 コンバインや乾燥機等の整備・清掃を。二段乾燥を行うための一時貯留方法もご検討下さい。</p> <p>○収穫適期の判定は玄米サンプルで 収穫適期が近づいたら、ほ場単位で平均的な場所から数株を刈取り、1～2日乾燥後、適期判定へ。</p> <p>○収穫作業 収穫した生籾は長時間放置せず、速やかに乾燥を。刈り始めや気温の高い状況では「ヤケ米」の発生に注意。 コンタミ防止のため、品種が変わる場合は機械の清掃などに注意。 倒伏力所などは別刈りで、品質低下を防ぐ。</p> <p>○乾燥・調整 胴割粒の発生を防ぐために、急乾・過乾に注意しましょう。 ①毎時乾減率は0.8%以下に ②一時乾燥は1.8%以下に ③仕上げ水分は14.5～15% 乾燥後の放冷は十分に、穀温が低下してから籾摺りを。 米選・調整は出荷基準に従って適正に進めましょう。</p> <p>○収穫後のほ場管理 収穫後は、速やかに心土破碎の実施や水の溜まる場所では「溝切り」実施でほ場の乾燥化を促す。排水の良いほ場では稲ワラの秋勤込み（スタブルカルチ等による粗耕起）を行って下さい。ロータリー耕は避ける。</p>
小麦	<p>秋まき小麦 ○は種時期が近づいています。は種日・は種量を守ろう！ 茎数は多くても、少なくても多収には結びつきません。 【は種適期：9/18～9/24】 は種量5～6kg/10a 【遅まき：9/25～】 は種量6～7kg/10a （今金アメダス平年値 例：千粒重39.5gで計算） ※は種量の調節をきちんと行った上で、は種しましょう。</p> <p>○除草剤について 雑草の種類によって、散布時期や除草剤の種類を決めましょう。 特に、イネ科雑草に対する除草剤は、秋のみの使用となっていますので、散布時期を逃さないように注意が必要です。また、越冬雑草も秋に除草剤処理することにより、効果が高くなります。</p>
馬鈴薯	<p>ばれいしょ（早4日） ○打撲を防ごう！ 収穫物のキズや打撲は品質劣化につながります。これを回避するために、収穫機械の調節・整備、特に緩衝材部分の調整を行いましょう。また、収穫時にコンベヤの回転速度・掘り取り刃の深さを調節しましょう。 収穫は茎葉処理後10日以降、ほ場が乾いた晴天の日に行いましょう。寒い日に行うと打撲が多くなります。</p> <p>○収穫後のほ場整備に努めましょう。 速やかに次の作物に入れるように、緑肥のは種や堆肥散布などのほ場の整備を行いましょう。また、収穫後のほ場に残った小イモは拾い上げ、野良生え防止に努めましょう（野良生えは病害虫を増加させる大きな要因です）。</p>
大豆	<p>大豆（早5日） ○マメシクイガ防除の徹底 普及センター設置のフェロモントラップに飛来が確認されています。マメシクイガによる収穫物の食害が年々増えています。全道的に発生自体が増加していますので、防除を徹底しましょう。</p> <p>○ほ場に「イヌホオズキ」が生えていませんか？ 大豆ほ場に限らず、イヌホオズキの生えているほ場が見られます。収穫時に黄大豆の汚粒発生源となりますので、収穫前に全て抜き取りましょう。 イヌホオズキ（ナス科、1年草） 8～9月に白い花が咲き、実は丸く、熟すと黒くなります。この黒い実が大豆収穫時に汚粒発生源となります。近年はイヌホオズキに特に効果がある除草剤も販売されています。</p>

今後の農作物管理	
小豆	<p>小豆（遅1日） ○最後の防除を行いましょう 莢の中に侵入し食害するアズキノメイガの発生が見られます。収穫前最後の防除を行いましょう。</p> <p>○時期を逃さず収穫しましょう 収穫の目安は、にお積みする場合は：熟率率70～80% コンバイン収穫の場合：熟率率100%及び子実水分16～18%です。 収穫遅れは、子実水分の低下による損傷粒の発生・品質低下を招きます。また、脱粒による収穫ロスにもつながります。 基本的に茎葉より子実水分を優先し、収穫遅れのないように作業を行いましょう。</p>
園芸	<p>アブラナ科野菜 「プレバソフフロアブル5」や「フェニックス顆粒水和剤」などの、ジアミド系の薬剤に抵抗性を持つ「コナガ」が発生していますので、効果が低い場合は、速やかに他の薬剤を使用しましょう。</p> <p>ブロッコリー 花蕾腐敗病、軟腐病の発生を防ぐため「スターナ水和剤」や「ベジキーパー水和剤」、「マスタピース水和剤」「コサイド3000」等で予防的に防除を行いましょう。</p> <p>だいこん・こかぶ 引き続き、コナガ及びアオムシの発生に注意しましょう。 軟腐病対策は、「バイオキーパー水和剤」や「マスタピース水和剤」「ジーファイン水和剤」などで予防防除を基本にします。発生状況に応じた薬剤を選択しましょう。</p> <p>にんじん 黒葉枯病は、肥大中～後期（は種後70～80日）に発生しやすい主要病害です。収穫までの日数を考慮し計画的に防除を行いましょう。 また、この時期は収穫前の降雨による「割れ」の発生が多くなります。水稲や馬鈴しょの収穫作業と競合する時期ですが、天候を見ながら、適期収穫を行いましょう。</p> <p>軟白長ネギ 9月に入ると気温も下がり始め、サビ病の発生が心配されます。風雨により葉が傷つくとも発生するので注意して下さい。</p> <p>ミニトマト 9月以降は、生育が緩慢になるとともに肥料、水の必要量も減ってきます。かん水量を調節し、草勢を維持するようにしましょう。過度に追肥すると着色不良や果実の生育遅れが発生しますので、適正追肥を心がけましょう。 また、草勢が落ちると、うどんこ病が発生しやすくなります。特に昨年発生したハウスでは発生しやすいため注意します。「パンチョF 顆粒水溶剤」「イオウフロアブル」等により防除を行いましょう。</p>
てんさい	<p>てんさい（遅2日） ○褐斑病の防除 褐斑病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延します。天気に注意し、散布間隔があきすぎないように引き続き防除を継続して行いましょう。</p>
畜産	<p>牧草（早2日） ○残暑対策を行いましょう 9月は昼夜の気温差が大きく、畜舎内の湿度は高めに推移します。 残暑が予想されるため、引き続き扇風機で牛体に風を当てたり、トンネル換気等で畜舎内の温度や湿度を下げて牛のストレス低減を図りましょう。</p> <p>飼料用とうもろこし（遅4日） ○飼料用とうもろこしの適期収穫と調整 ほ場で子実熟度を確認し、黄熟期を目標に計画的に収穫しましょう。 切断長は黄熟期で9～12mm程度とし、切断面を鋭利にするためハーベスタの刃研ぎをこまめに行いましょう。</p> <p>○草地土壌分析と植生調査を行い管理計画を立てよう 本年の収量や草種構成の変化などを調べ土壌分析による肥培管理や除草剤処理を計画しましょう。</p>

檜山農業改良普及センター 檜山北部支所
TEL 0137-84-5514
FAX 0137-84-5596
E-mail hiho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp



J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

J A 北海道中央会

昨年12月の「農協改革」に関する組合員向け資料に引き続き「准組合員制度」についての組合員向け資料を作成しました。



准組合員利用規制に関して、農林水産省が結論を出す期限の平成33年3月末が迫る中、准組合員利用規制が及ぼす影響を、組合員の皆さん一人ひとりが考えうるきっかけとしての活用を目的としております。

本資料は、准組合員制度の成り立ちや准組合員が地域を支える実態、規制改革推進会議が准組合員利用規制を迫る背景などを、平易な対話形式により表現しております。

中央会のホームページに資料を掲載しておりますので、ご覧ください。

J A 北海道信連

8月に、小学生の親子を対象とした『旬食カレッジin旭川「収穫・料理教室」』をJ Aあさひかわの協力を受け開催しました。

大根の収穫体験、収穫した大根を使った料理教室、農業者による講演等を実施するなど、「食材が畑から食卓に並ぶまで」を体験していただき、農業・食の大切さを伝えることができました。参加者には、「農家を身近に感じた」「また参加したい」など好評でした。



ホクレン

LINE@等を活用した生産者向け情報発信サービス「ホクレンインフォメーション」では生産者の皆様に向けたイベントや新商品の情報、生産資材（飼料や農薬など）価格、スマート農業情報などの営農情報をタイムリーに発信しております。今後とも生産者の皆様に役立つ情報を発信してまいりますので、ぜひお手持ちのスマートフォンやパソコン（<http://hokuren-news.jp/>）から登録ください。



↑LINE登録はこちらから



J A 共済連北海道

8月4日、札幌にて「全道L A・スマサポ大会」を開催し、全道J Aの中から平成28年度普及活動で優秀成績を収めたL A 38名と、スマイルサポーター11名が登壇し、表彰しました。

J A共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック（保障点検活動）」の実践を通じて、組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めて参ります。



J A 北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非一読ください。



家の光を

**購読
しませんか?**

「家の光」は総合家庭雑誌。
毎日の生活に役立つ、
いろいろなことを詰め込んだ、
家族みんなが楽しめる月刊誌です。



毎日の食事作りの味方

楽しく作れて実用的!

畑仕事のヒント



JAのこと、JA女性組織のこと

美しく健康に

子どもに読み聞かせたい



暮らしに役立つ連載企画 (2016年12月号~)

- エダモンの産直レシピだモン!
- JAなるほど質問箱
- まんがで丸わかり お助け! 家計防衛隊
- そうだったのか! 畑のサイエンス
- 瀬尾幸子の 野菜がうまい! おつまみ道場
- 農作業の凝りを解消! 畑ヨ〜ガ



年6回別冊付録が付きます!

料理や健康、野菜作りなど
バラエティーに富んだテーマでお届け!



※写真の別冊付録は28年のものです。

人・JA・地域が元気 定価(税込)

家の光

- 普通月号 617円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号) 906円
- 第一・第二別冊付録付き12月号 1,008円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11
TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

お申し込みはお近くのJAへ